



犬飼市老連会長



令和5年度 新任会長研修会

6月14日、昭和文化小劇場において、令和5年度新任会長研修会を開催しました。新任会長72名およびクラブリーダー11名が参加。本研修会は老人クラブの目的と役割をはじめ、取り巻く現状などを理解し、地域を担うリーダーとしての資質向上を目的としています。

開会にあたり、犬飼会長があいさつ。「人生100年時代という言葉をよく耳にします。人生が長くなれば、生活を豊かにできる機会が広がる反面、老々介護や闘病生活といった深刻な現実も待って



意見交換会



いきいきクラブ体操

(1頁からの続き)

【2日目】

◆いきいきクラブ体操

- ◆事例発表
- (1)石川県志賀町／令和シニアクラブ・山本洋子クラブ長
- (2)福井県永平寺町／ゆずり葉の会・大関政英副会長
- (3)愛知県津島市／つしま生きがいクラブ・日比正光会長

浅野幸雄会計

◆意見交換会／テーマ「クラブ活動を楽しくむヒント」コーナー
ディネーターは地域問題研究所・池田哲也氏

名古屋市老連女性リーダー会代表者メンバーがステージに上がり、いきいきクラブ体操からスタート。ウォーミングアップ後、事例発表に移り

ました。

(1)石川県／令和シニアクラブ

解散した地区で女性4名がクラブを立ち上げ、復活させた事例を発表。高齢者が住みやすい地域となるよう、令和3年に見守り支援や生活支援などを行う「友愛活動」を開始。会員数が55名に増えたため、「令和第2シニアクラブ」を立ち上げました。現在も友愛活動を継続し、会員が力を合わせ、クラブを発展させています。

(2)福井県／ゆずり葉の会

「自身の福祉増進のための事業を創造する活動を起こそう！」という考え方を取り入れ、生き生きと活動している事例を発表。ライフスタイル

の変化を踏まえ、新しい高齢者ニーズとのミスマッチを解消するために、議論を重ねています。役員若返りを図り、名称も老人会を使わず「ゆずり葉の会」に変更しました。地区の65歳以上未加入の方全員に「氏名入り」の案内状を持参し、説明しながら勧誘活動。結果、22名の新規会員加入につながりました(現在会員数58名)。

(3)愛知県／つしま生きがいクラブ

福祉施設の管理者として10年ほど実績を重ね、独自の事業を積極的に展開しています。事務局には常駐の役員を配置し、報酬を支給することで円滑な運営を図っています。また、ホームページを随時更新して活動内容を発信し

います。健康の維持は大事で、なごやかクラブの活動自体が健康づくりの宝の山であります。研修会で得たことを今後のクラブ運営のヒントにしてください」と述べました。

続いて「老人クラブの組織と活動」と題し、田口欽郎研修委員長より講義がありました。老人クラブは「生活を豊かにする楽しい活動」と「地域を豊かにする社会活動」を柱としています。仲間を増やして活力を維持するためには

地域を回って声掛けしたり、参加者が減ったらやり方を変えたり、工夫することが大切と説きました。

その後、名古屋市健康福祉局高齢福祉課の松岡康治企画

係長から「老人クラブ運営補助金」について、説明がありました。申請の手続きや補助の考え方など、ポイントを押さえながら解説。「補助金は税金から出されているため、適切に使われたことがわかる書類が必要になります。不明な点があれば気軽に相談してください」と、結びました。

休憩を挟み、あいち健康の森健康科学総合センターの平川仁尚健康開発部長を講師に迎え、「すこやかなエイジングライフ」をテーマに講演が行われました。

QOL(クオリティオブライフ)生活の質・人生の質の向上など、健康で長生きするための情報をさまざまな角度から紹介。例として、若い

ています。主に女性部役員が活動を支えているサロン事業や、地域の企業や商店(53カ所)と連携し、クラブ会員証の提示で特典が受けられる仕組みなども構築。入会のきっかけになつてきている事例として発表しました。今年度の新たな事業として津島市と連携し、eスポーツ体験の場を提供する予定です。

次に「クラブ活動を楽しむ」をテーマに、池田哲也氏による進行のもと、参加者全員で意見交換会が行われました。会員数減少や後継者不足改善には、まずは会員がクラブのメリットを再確認し、楽しむことが有効です。お互いのクラブ事情を知ることで話も弾み、有意義な時間を過ごしました。

頃と比べて「衰えた」と思いながら暮らす人より「まだまだ元気」と思いながら暮らしていく人の方がQOLが高い状態にあるとのこと。

また、人生の終末期を見据え、医療やケアについて前もって考え、大切な人と話し合い、自分の言葉で残すことも必要と語りました。

